

# BIG BEARS ロシア・アルタイ遠征

早稲田大学ワンダーフォーゲル部 4年 大門真一郎

私達早稲田大学ワンダーフォーゲル部は、この夏ロシア・アルタイ共和国を流れる **Katun** 川にラフティングで遠征を行ってきました。8月8日から9月2日までの約1ヶ月間ラフティング漬けでした。その報告をこの場を借りて行いたいと思います。

メンバーはL大門とSL渡部(3年生)、2年生は内山、竹内、橋下の3人、そしてこの6月からラフティングを始め、わずか2か月の経験でロシア遠征に臨む新人福永。あとは大家監督と、横塚アシスタントコーチにも同行していただきました。

おおまかな構成は1ラウンド(R)がツーリングでアルタイの自然そして **Katun** 川を満喫し、2ラウンドに大会の練習、そして3ラウンドでロシアカップ(正式名: **Ak-Talay-Margaan 2011**)に出場するというものです。

## 1R (8月11日~19日): ツーリング

1Rはツーリングを行いました。ウスチ・コークサ村の近くからクユース村というところまで、大体200km以上9日間をかけてのリバーツーリング。初めはクリスタルグリーンで下って行くうちに数々の支流が流れ込み段々と白濁色に変わっていく水の色や、周囲を取り囲む壮大な山やボロボロの家が立ち並ぶ集落。アルタイの言葉で母を指す **Katun** 川でのツーリングです。構成はレスキュー艇(現地リバーガイド付き、大家監督、横塚AC)、**BIG BEAR** 艇、カヤッカーの3艇で下りました。途中クラス2と言われた瀬でフリップしそうになったり、ガイドに”no rapid”と言われた日にもグレード3くらいの瀬がたくさんあったりという感じで下りました。この区間には3つのグレード4 (**Akkem rapids**, **Ilgumensky rapids**, **Shabash** という名前です)があり、それぞれ迫力満点でした。前半はガイドがつきながらのツーリングでしたが、私達のパドリングを見たガイドが必要ないと判断し、後半は自分達だけでのコントロールになりました。ちなみにフリップは1回だけ、グレード3の瀬が連続する場所でした。荷物を積みながらのフリップは初体験!無事リカバリーすることが出来、事なきを終わりましたが少しビビった新人もいたようです。アルタイの雄大な自然の中のツーリングや、ロシアのウォッカに大満足な9日間でした。

## 2R (8月22日~25日): 競技練習

2Rは競技の練習を行いました。大会会場となるクル・ケチュという場所に到着した時には、たくさんのチームがすでに練習を開始していました。しかも、どのチームもうまい!予備パドルまでカーボン!ライジャケ、メット、ユニフォームまで揃っていてかっこよすぎる!それに比べてカーライルパドルが2本と、ライジャケ・メットがバラバラの我がチームを見て、少し気おくれしてしまいましたが、ひとまず胸を借りるつもりで行うことに

しました。4 種目中 3 種目がイルグメンスキーという 400m 程の瀬（グレード 4）で行われるので練習期間中はそこを集中的に下ることにしました。練習と言っても水が重すぎて 1 回降るたびにかなり消耗し、私達は 1 日 5 回が限度でした。練習段階からスラロームのゲートが設置されていたので、それを練習で使用しましたがかなりの難易度。今までのどの大会よりも難しいセットでした（というか力任せなセット?）。結局完璧にくぐることはできずに大会本番を迎えることに。

### **3R (8月27日～31日) : ロシアカップ (Ak-Talay-Margaan2011 Super marathon)**

#### ○スプリント : タイムトライアル・H2H

いよいよ待ちに待った大会、合宿のクライマックス。8月27日は登録・メディカルチェックだけだったので実質的には28日からが大会。雨の降る開会式で日本から来たとの紹介があり、周囲から歓声が聞こえてきました。過去にもドイツチームやチェコチームが来たこともあるみたいでしたが、日本からは初めての参加、緊張します。開会式が終わると1時間後にはタイムトライアルの開始。私達はR6男子の12チーム中12番目の出艇でした。直前にラインの確認を行い、皆で声を掛け合い士気を高め出艇。前日までよりも水量の増えたイルグメンスキーでしたがなんとかフリップせずに漕ぎ切りました。下るとすぐに回送。岩の間をポーテージするのでなかなか大変でしたが、他にこのボートを使用するチームがあるので（私達のリバーガイドもなんちゃってで出場していました!）早く回送を行いました。そして、リバーガイドとその友人チームを観戦した後、すぐに対岸にフェリーで移動。H2Hは対岸である右岸からのスタートなのです。スタート位置にいくと、タイムトライアルのリザルトが既に出ていました。12チーム中8位で自分たちの立ち位置を知るも、H2Hの相手はアルタイラフト1（コスタリカのロシア代表!）とやることになりました。H2Hはスタートからどんどん置いて行かれ、大差での負け、テイケイのライバルはやはり強かった。敗戦の後には他のチームの観戦を行いました。ちなみにこのH2Hでは4カテゴリー全37チームすべてが出場しました。その中で4チームくらいがフリップしておりました。みなかみ X-Treme の時に浅野さん(ラフティングチームテイケイ監督)が「やっぱりラフトの大会はフリップしなきゃ」と言っていたのを思い出しました。決勝はヤロマック vs ガーガー1（アルタイラフト1は準決勝で敗退）でした。結果はヤロマックの勝利。運営面も非常にスムーズで次から次にラフトが来る、しかもボートと観客の距離も近い、1位が最後まで分からない、参加しても、見ていても非常に楽しい大会です。

#### ○スラローム

29日はスラロームとR4のダウンリバー。午前11時からスラロームの開始です。出艇順は3番目（前日の結果があまり良くなかったので）でした。ゲートセットは非常に特殊なセットで、今までは見たこともないアップゲートでした（川に対して3時→9時方向にはられ、岸側から川の中央へくぐるというセット）。スラローム1本目、いきなりスタートをすると、流れが強いイルグメンスキーに対して為す術もなく、12ゲート中1ゲートのみの通

過でそのまま流されてゴール。恥ずかしさや悔しさに混乱していると、後輩から上手いチームを見ましようという声があり、気持ちを切り替えられました。ロシアのチームはさすがに慣れているようで果敢に挑戦していきます。しかし、1本目ですべてのゲートにくぐれたチームはいないようです。スラロームの2本目では、自分たちの力から取りに行くところだけ取りに行くことにしてラインを決定。結果は12ゲート中5ゲート、12チーム中11位でした。この日は翌日のダウンリバー（このコースは1本しか下っていないコースですが）の戦略を確認して就寝に。夜はディスコに行きました。そこであったハンター（アルタイにはハンターを趣味や職業にする人が多いのです）に鹿肉をごちそうになりました。

### ○ダウンリバー

30日はダウンリバーに出場。このダウンリバー15kmのロングレースと50kmもの距離を漕ぎ抜くスーパーマラソンがあり、どちらかを選択できましたが私達のチームはロングレースを選ぶことに。本当はスーパーマラソンに出場したかったのですが、2年橋下の体調が優れずに止む無くという形でした。朝スタート地点に移動すると他のチームも続々と入って練習しています。スタートは12チーム一斉スタート。私達は10位、つまり上流側より3番目のスタートでした。「Ctapt」というコールが聞こえ一斉にスタートしましたが、スタートダッシュをするも11番目になってしまいました。ロシアのチームは初めからかなり飛ばしている模様、ピッチも日本の試合では考えられないくらいハイピッチ（?）、これくらいのピッチでやっているのはテイケイくらいだろうという感じです。でも、他のチームに合わせなければ当然勝てないので、早いピッチで行くことに。開始3分くらいでバテ始めるものもいましたが、最後まで緩めずに行きました。結果は11位でしたが、私が体験したダウンリバーでは今まで一番きついダウンリバーになったことは間違いありません（2番目は昨年の天竜川WWFでの25kmです）。

この夜も皆でディスコに向かい大フィーバー。2年竹内は舞台を席卷し、3年の渡部は舞台に立ち独唱していました。

そして31日の閉会式で大会は幕を閉じました。日本から来たということで、色々な賞品と、ロシアチームとの記念撮影を行いました。女子のヨーロッパチャンピオンとも記念撮影。なかなかいい記念になりました。

### **感想**

合宿通しての感想ということで、川についてと大会についての2点につき述べさせていただきます。まずはKatun川について。私達は去年の12月にKatun川に行くことを決定し、そこから現地との折衝や実力アップ、アルバイトなどを通して合宿の準備をしてきました。グレード4ということで、かなりの安全対策をして臨みましたが、実際に下ってみると過保護かなというくらいでした。迫力はありましたが、それくらい安全な

川であったということです！Katun 川の特徴を表現すると、大きいウェーブがあり、たまに巨大ホールがある川で危険な岩などはほとんどないということになります。その分ある程度の技術さえあればかなり楽しむことが出来ます。技術の目安としては、リバベン上級 10 位以内に入れば問題がないと思われます（私達は 11 位でした）。勿論、レスキューに関しては別の問題なのと、初見の川を下れるためのそれなりの経験が必要になります。また、川幅が広く、周囲に雄大な山々があるために、見ていてもとても楽しい川です。夜は焚火での調理、焚火を囲みながらの食事、そして満点の星々を見ながら飲むウオッカ、リバーツーリングにもピッタリです。

次に大会についてですが、ロシア最高峰のレースラフティングの大会ということで、どのチームもモチベーションが物凄く高かったです。男子チームで言うと、ロシアの代表チームは毎年変わるので優勝が分からない大会です。今年の R6 のコスタリカ代表はアルタイラフト 1 ですが、去年はガーグー1 です（チーム名の後にある 1 はエース艇というような意味です）。ちなみにこの大会に優勝したのはガーグー1 でアルタイラフト 1 は 2 位でした。出場している年齢も高校生くらいの人たちから社会人までいました。日本で高校生がラフティングの大会に出場するのって、今はないことですよ。それくらい選手層は厚くレベルも高い大会でした。でも、日本からのチームが全く戦えないわけではないと思います。今回は 12 チーム中 11 位でしたが、この結果は、私達のチームの準備不足による部分が大きかったと思います。メンバー構成も 6 月からラフトを始めた新人もメンバー入りし、その割に日本では大会のための漕ぎ合わせはあまり行わずにということでした。以上から考えるならば、リバベンを指標として考えると上位 3 位くらいまでに入る実力があるならば、その後の練習次第で 5 位以内を目指せるのではないかなと思います。

これが実力面で、他に大会の特徴をあげるとすると、運営がとてもスムーズで見ていて面白い！ということです。タイムトライアルが開始してから 1 時間半後には H2H が始まるし、その H2H は参加全 37 チームが進むことが出来て、しかも各カテゴリーの決勝まで大体 2~3 時間の時間内で行うことが出来る。スラロームを下り終わった時にはその 1 本の記録と現時点での順位を見ることが出来る。ダウンリバーもゴールしてからあまり時間がたたないうちにリザルトが出ている。間違いは当然あるけれども、素早く行うということが徹底されていて、とても気持ちよく進んでいくことが出来ました。

運営面のスムーズさと併せて、見ていて楽しい！ということがあります。スムーズなので次から次にボートがやってくる。しかも絶対的な優勝候補がいないため、H2H は最後の最後まで勝者が分からないし、スラロームにしてもそのような実力をもってしても全ゲートくぐれるチームは殆どいない（アルタイラフト 1 の 2 本目は全ゲート通過のペナルティ 0 でしたが）。また、そのようなレースをまじかで見ることが出来る、ということで間延びすることもなく、見ていて本当に楽しかったです。また、レスキューがしっかりしています。大会中多くのチームがフリップしていましたが、そのまま流されていった人は勿論、装備をなくしたチームもいません。

ロシアカップを経て、日本のレースラフティングの大会もこのくらい運営がスムーズに行って、楽しめるといいのになと思いました。勿論日本の大会だっていつも感動するし、見ているだけでも参加しても楽しかったです。しかし、学ぶべき部分も多くあるということと、レースラフティングにはもっともっと可能性があると感じさせてくれる大会でした。

このロシア・アルタイ遠征を通して、様々な人に多くの協力をいただきました。この場を借りて感謝したいと思います。本当にありがとうございました！